

## 株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第104期中間報告書(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

五十嵐 一浩



## 株主のみなさまへ

### ■ 変化するビジネス環境への対応

現在、IoT、ビッグデータ、AIなどのICT（デジタル）技術が、産業・社会へ急速に普及しつつあります。今まさに、人々の働き方や日々の生活に大きな変化、イノベーションを引き起こす「デジタル革新」の時代を迎えています。

当社を取り巻くビジネス環境も、国内金融機関の経営環境の変化や世界的なキャッシュレス化の進展など、大きく変化しようとしています。そのなかでは、働き方改革や人手不足による自動化・省力化の進展、安全・安心に対するニーズの高まり、国内外の流通店舗における現金管理業務の効率化への関心の高まり、決済手段の多様化など、ポジティブな変化も数多く見られます。

このような状況のもと、当社グループは、既存ビジネスの維持・拡大に加えて、キャッシュレス券売機やマルチ決済システムなどの現金を使わないフロントソリューション、流通店舗向けの現金運用管理サービス、金融店舗の省力化・効率化を実現するソリューション、RFIDなどのユニーク技術を応用・活用したIoTセンサーソリューションなど、新しいビジネスの確立に積極的に取り組んでおり、具体的成果も現れています。

当社グループは、これらのソリューションを通して、お客さまのフロントの変革を確実に支援することで、お客さまのご期待に応えてまいります。

### ■ 当中間期の業績および中間配当金について

当中間期における当社グループを取り巻く経営環境は、全体としては緩やかな拡大基調であったものの、米国発の貿易摩擦の強まりなど不透明感を強めながら推移いたしました。

このような状況のもと、国内向けではトータルイータ端末の新機種やtoto端末の展開などが売上に貢献したものの、営業店端末が展開の端境期であることにより減少いたしました。海外では小型リサイクルユニットの新機種などが売上に寄与いたしました。これらにより連結売上高は47,732百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

連結営業利益につきましては、前述の増収効果はあったものの、売上構成の変化や価格競争の激化などにより776百万円（同1,133百万円の減）となりました。また、連結経常利益は978百万円（同934百万円の減）、親会社株主に帰属する中間純利益は516百万円（同812百万円の減）となりました。

中間配当金につきましては、株主のみなさまの日頃のご支援にお応えするため、1株につき11円とさせていただきます。

### ■ 通期の見通しについて

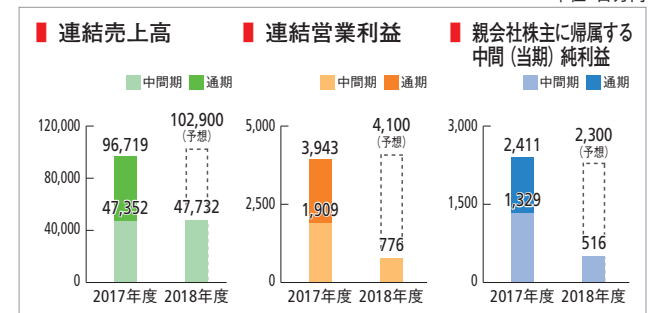
通期の見通しにつきましては、海外経済の動向や為替変動などの外部環境の不透明さは継続すると考えておりますが、積極的なビジネス展開や事業効率化を推進することで、連結売上高102,900百万円、連結営業利益は4,100百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は2,300百万円を計画しております。

今後とも、当社グループは一層の業績向上、企業価値の向上に努めてまいります。株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年11月

### ■ 業績ハイライト

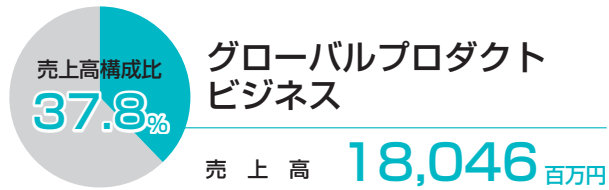
単位：百万円



### ■ 年間配当金の推移

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
配当金	18円	20円	22円	22円	22円(予想)

## セグメント別事業の概況

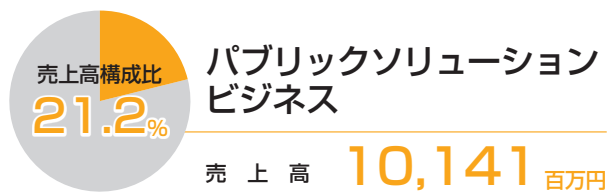


### ■ 主要な事業内容

ATM、営業店端末、メカコンポーネント、海外向け装置ソリューション

当セグメントの連結売上高は、18,046百万円（前年同期比3.6%減）となりました。国内ATMが増収となったものの、営業店端末が展開時期の端境期であることなどにより減少しました。海外では、小型リサイクルユニットの新機種が売上に寄与しました。

連結営業損益は、減収影響や価格競争の激化などにより575百万円の損失（同1,282百万円の減）となりました。

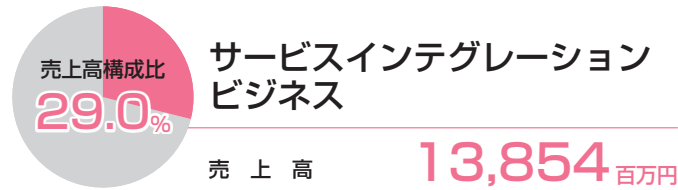


### ■ 主要な事業内容

公営競技場向け関連製品（トータルイータ関連機器）、公共表示関連製品、せり関連製品、金型および精密切削加工部品

当セグメントの連結売上高は、10,141百万円（前年同期比14.9%増）となりました。トータルイータ端末の新機種およびtoto端末の展開などにより、増収となりました。

連結営業損益は、増収に伴う荒利益の増加や新製品の開発が完了したことなどにより、638百万円の利益（同472百万円の増）となりました。

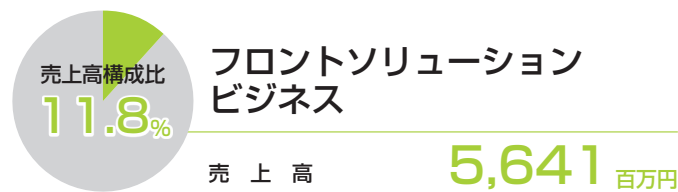


### ■ 主要な事業内容

ATM・金融ソリューション、産業ソリューション、IoT/セキュリティソリューション、金融サービス、流通サービス、LCM サービス

当セグメントの連結売上高は、13,854百万円（前年同期比3.2%増）となりました。ソリューション関係では前年度に設立したPositek RFID, Inc.のRFIDソリューションなどが売上に寄与しました。サービス関係では現金管理運用サービスの展開が拡大するなど、堅調に推移しました。

連結営業損益は、売上構成の変化や新商品の開発費および商談推進費用の増加により、1,208百万円の利益（同298百万円の減）となりました。



### ■ 主要な事業内容

手のひら静脈認証、RFID/センサーソリューション、決済ソリューション、モバイルシステム

当セグメントの連結売上高は、5,641百万円（前年同期比11.1%減）となりました。国内は流通向け決済端末、海外はRFIDがそれぞれ好調に推移したものの、前年度にあった物流会社向けモバイル端末の大口需要の一巡などにより減収となりました。

連結営業損益は、減収影響などにより223百万円の利益（同42百万円の減）となりました。

## 連結財務データ

### ■ 中間連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (2018年9月30日現在)	前 期 (2018年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	51,917	52,721
固定資産	20,353	18,565
資産合計	72,270	71,286
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	23,023	22,313
固定負債	2,213	2,876
負債合計	25,236	25,190
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	46,709	46,493
その他の包括利益累計額	△ 286	△ 946
新株予約権	182	152
非支配株主持分	427	396
純資産合計	47,033	46,096
負債純資産合計	72,270	71,286

### ■ 中間連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	前中間期 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)
売上高	47,732	47,352
売上総利益	9,342	10,457
営業利益	776	1,909
経常利益	978	1,912
税金等調整前中間純利益	965	1,912
中間純利益	532	1,342
親会社株主に帰属する中間純利益	516	1,329

### ■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	前中間期 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	468	4,441
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,728	△2,504
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 861	△ 817
現金及び現金同等物に係る換算差額	117	23
現金及び現金同等物の増減額	△ 3,004	1,142
現金及び現金同等物の期首残高	20,251	18,750
現金及び現金同等物の中間期末残高	17,246	19,892

## 最新ソリューションビジネスのご紹介

### ■現金を使わないフロントソリューション

当社では、キャッシュレス化の進展や決済手段の多様化に対応したソリューションを提供しています。

公営競技分野においては、富士通と共同で、現金を使わず、手のひらをかざすだけで馬券の購入や払戻しができるキャッシュレス発売機を開発しました。

手のひら静脈認証による高いセキュリティで、より安全かつ便利に競馬を楽しむことができます。

既に日本中央競馬会様の東京競馬場で運用を開始しており、順次、全国の公営競技場などへ展開を進めていきます。



キャッシュレス発売機

### ■流通店舗向け現金管理運用サービス

人手不足が深刻化するなか、流通店舗等において、現金管理業務の効率化に高い関心が集まっています。

当社は、現金管理に係る業務量を減らすとともに、現金在高を見える化し、蓄積したデータを分析することで資金運用を効率化するクラウド型現金管理運用サービス「TeamCloud/CM」を提供しています。

今年度上期は新たに大手ドラッグストアで展開を開始しました。今後も、現金を扱うあらゆる業種のお客さまにサービスを拡販していきます。



TeamCloud/CMサービスの概要図

### ■新しい金融店舗向けソリューション

国内金融機関においては、事務処理のさらなる効率化など金融店舗の変革に対する要望が高まっています。

当社は、従来窓口で行っていた手続きの一部を、お客さま自身で行うことができるセミセルフ方式の事務効率化ソリューションの提案を積極的に進めています。

これにより、窓口処理スピードの飛躍的向上と事務処理プロセスの大幅短縮を実現し、顧客満足度の向上を実現します。

都市銀行、地方銀行向けに展開しており、今後さらなるビジネスの拡大を図ります。



### ■IoTセンサーソリューション

当社は、RFIDタグやビーコン等のセンサーを活用することで、物の位置、導線、数量、温度、湿度等のデータをクラウド上に蓄積し、可視化するソリューションを開発しました。現在、事業化に向けて、コンビニ、アパレル、自動車部品などの倉庫管理や、施設、倉庫、農業、冷凍庫内の温湿度管理等について、様々なお客さまと実証評価を行っています。

これらの取り組みを通じて、あらゆる業種、分野における業務の効率化をサポートしていきます。



冷凍車内での温度管理

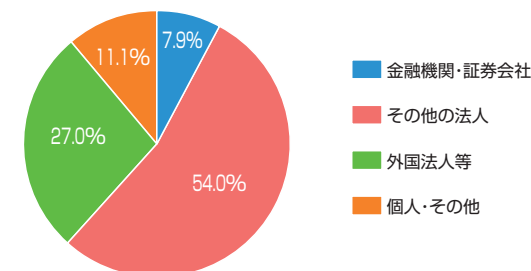
## 株式の状況 (2018年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 43,600,000株
- 発行済株式の総数 24,015,162株
- 株主数 3,649名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数	出資比率
	千株	%
富士通株式会社	12,775	53.4
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	672	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	624	2.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	497	2.1
CREDIT SUISSE AG, DUBLIN BRANCH PRIME CLIENT ASSET EQUITY ACCOUNT	493	2.1
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION-CLIENT ACCOUNT	438	1.8
NOMURA PB NOMINEES TK1 LIMITED	391	1.6
GOVERNMENT OF NORWAY	380	1.6
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	373	1.6
BNY FOR GCM CLIENT ACCOUNTS (E) BD	334	1.4

(注) 出資比率は、自己株式(90,897株)を控除して計算しております。

### ■所有者別出資比率の状況



本報告書は、次により記載されております。  
 1. 百万円単位の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 千株単位の株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

## 会社の概要 (2018年9月30日現在)

商号	富士通フロンテック株式会社 FUJITSU FRONTECH LIMITED
設立	1940年11月9日
資本金	8,457,500,000円
従業員数	連結:3,737名 単独:1,714名
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
役員	

代表取締役社長	五十嵐一浩	取締役(社外)常勤監査等委員	堀野靖人
取締役	松森邦彦	取締役(社外)監査等委員	鈴木洋二
取締役	吉田直樹	取締役	小関雄一
取締役	木村敦則		
取締役	小田成		

## 当社の主要な事業所

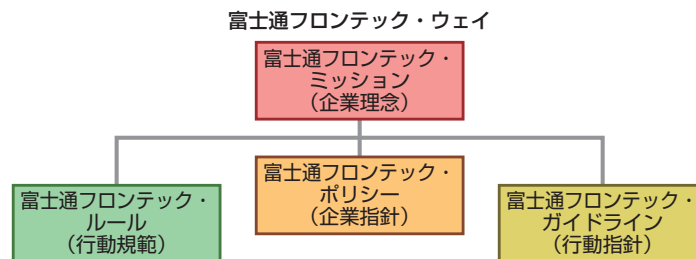
本店	東京都稲城市矢野口1776番地
工場	東京工場、新潟工場
営業拠点	営業本部、大森事務所、東北支店、中部支店 西日本支社、九州支店
事業拠点 (ソリューションサービス)	大宮ソリューションセンター 熊谷サービスソリューションセンター 大阪ソリューションセンター

## 主要な子会社

会社名	所在
FUJITSU DIE-TECH CORPORATION OF THE PHILIPPINES	フィリピン共和国
富士通先端科技(上海)有限公司	中華人民共和国
Fujitsu Frontech North America, Inc.	アメリカ合衆国
FUJITSU FRONTECH CHUNGHO GLOBAL PRODUCTS Co. Ltd.	大韓民国
株式会社ライフクリエイト	東京都稲城市
株式会社富士通フロンテックシステムズ	群馬県前橋市
トータルイータエンジニアリング株式会社	東京都品川区

## 富士通フロンテック・ウェイのご紹介

「富士通フロンテック・ウェイ」は、当社グループの存在意義、大切にすべき価値観、社員の日々のビジネス活動における行動の原理原則を示した「基本理念と行動指針」です。



### 富士通フロンテック・ミッション (企業理念)

私たち富士通フロンテックグループは、お客様と社会の期待に応え、お客様と喜びを分かち合うため、ヒューマン・インターフェースに関わる最先端の技術で、ハード・ソフト・サービスによるトータルソリューションをグローバルに提供することを使命とします。

そして、ものづくりにこだわり、品質にこだわり、人づくりにこだわります。

### 富士通フロンテック・ポリシー (企業指針)

- 顧客志向の観点で判断・行動
- 社員が充実して働ける環境づくり
- 利益を確保して持続的発展につなげる
- 社会正義・公正ルールの遵守

### 富士通フロンテック・ルール (行動規範)

- ①公正な商取引を行います
- ②人権を尊重します
- ③法令を遵守します
- ④機密を保持します
- ⑤知的財産を保護します
- ⑥業務上の立場を私的に利用しません

### 富士通フロンテック・ガイドライン (行動指針)

- ①私たちは、お客様視点で行動します
- ②私たちは、よき企業人・よき社会人として行動します
- ③私たちは、まじめで粘り強い努力を惜しみません
- ④私たちは、夢を持ち、チャレンジします
- ⑤私たちは、働く仲間を大事にします
- ⑥私たちは、地球環境を守ります

## 株主メモ

- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (通話料無料)  
【郵送先】  
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会関係  
3月31日  
配当金受領株主確定日  
3月31日および中間配当金の支払を行うときは9月30日
- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第2部
- 公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載して行います。  
公告掲載URL  
<http://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/about/ir/kk/>

ホームページ

<http://www.fujitsu.com/jp/frontech/>



## 富士通フロンテック株式会社

〒206-8555 東京都稲城市矢野口1776番地

